

# わが町のお金の使い道



ひこさえもん  
彦左衛門さん



えこたん

今年もわが町の台所事情をお知らせする時節となりました。平成27年度の1年間で町が使ったお金の中身をご覧いただき、今後の町政の動きをお知らせします。

今年も財政事情に詳しい町のご意見番「彦左衛門」さん（文中では彦左さん）の登場です。質問者は、環境と都市交通のイメージキャラクターの「えこたん」、進行役は広報担当「K」が務めさせていただきます。

## ◆一般会計

**K**：それでは、27年度の決算の特徴を教えてください。

**彦左さん**：一般会計の決算は、26年度と比べると歳入も歳出も増えたわけじゃが、歳入では町税が15・5億円余り減って過去に経験がないほどの減収となってます。えこたん

**えこたん**：そんな大幅な減収があったのに、どうして歳入も歳出も増えたんですか。

**彦左さん**：それはな、あのリーマンショックの時も同じような状況だったんじやが、こういう時にだけ借りられる減収補てん債という借金をしたのじや。そのおかげで0・5億円の貯金を積み立てることもできたわけじや。歳入歳出とも増えたのは、そんな訳があるのじやよ。

**えこたん**：じゃあ借金は増えたけど、税金を余分にたくさん使ったわけじやないんですか。

**彦左さん**：もちろんそうじやよ。税収の増減に左右されないように、将来のことも考えながら、借金も貯金も含めて、計画的に事業を実施していくことが必要なのじや。

**K**：27年度はどんな事業が行われたのですか？

**彦左さん**：それじやあ、27年度に取り組んだ主な事業について話を

するかのう。

まず、消防救急無線のデジタル化整備じや。これからは高齢者なども増えてきて迅速かつ確実な消防救急活動が増えてくるのじや。次に役場庁舎・消防庁舎・幸田中学校・南部中学校への太陽光発電設備設置、橋梁の長寿命化対策、町営住宅の外壁断熱化整備などじや。これらをひつくるめて普通建設事業というのじやが、前年度と比較すると4億円増えており、これも歳出増加の要因の一つとなっておるんじや。

**えこたん**：年々増えているといわれている扶助費はどうですか。

**彦左さん**：扶助費は、各種福祉サービスや児童・福祉手当の費用、中学校卒業までの子ども医療の無料化、医療費助成などの費用じやが、27年度は国と県の臨時的な給付金の廃止や縮小で、前年と比べて若干減少しておるが、今後増えていくことは十分考えられるので、注意深く見守っていかねればならんのじや。

**K**：それでは、ほかの主な費目もどんなものが教えてください。

**彦左さん**：それじや、物件費から説明しようかの。これは、役場や保育園など公共施設で働くパートさんの賃金や事務用品などの消耗品、施設の管理や保守点検の委託料などじや。町民会館・図書館・町民プール・高齢者生きがいセンター・高齢者ふれあいプラザ・道

の駅の6つの施設は指定管理者制度によって管理運営を委託しているのじや。

つぎに公債費は、借金の返済に充てられたものじや。借金は年々減らして来ておつて、27年度も10・9億円返済しておるんじやが、減収補てん債を借りておるおかげで、借金残高は59億円とまだ少し増えてしまつておるんじや。

**えこたん**：これから減らしていかないといけないですね。

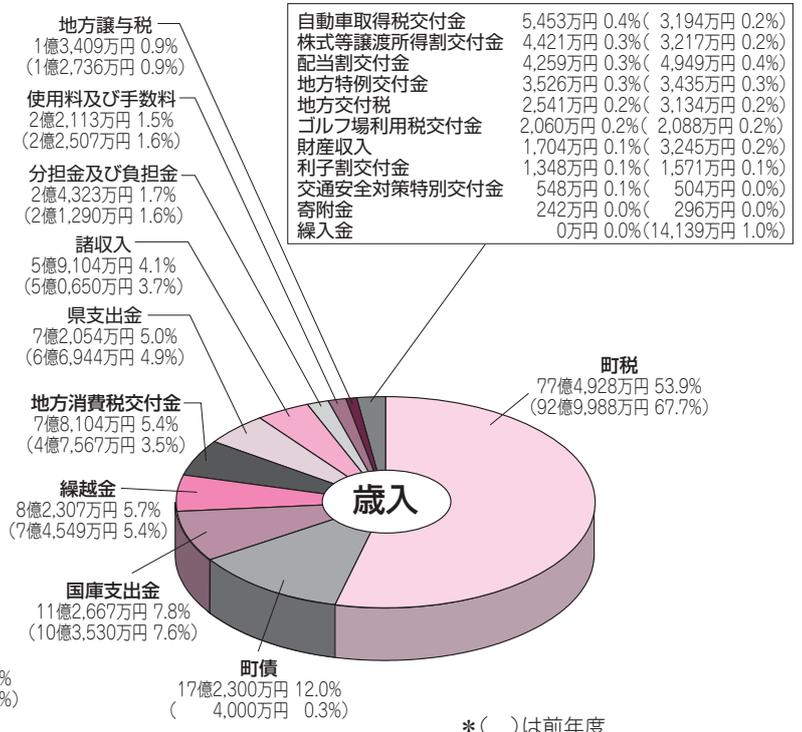
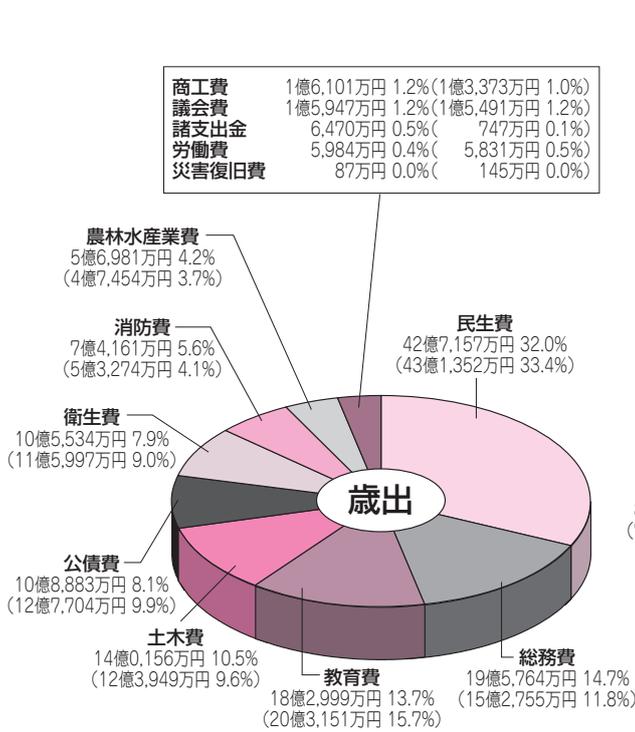
**彦左さん**：そうじや。借金の比率は愛知県内の他市町村と比べてもまだまだ高いので、今後も借金を減らしていく覚悟じやよ。

次に繰出金じや。幸田町には、一般会計のほかに特別会計や企業会計というのがあつて、それを運営するために一般会計から支出するお金のことを繰出金というのじや。国民健康保険特別会計と下水道事業特別会計への繰り出しが特に増加し、全体では26年度よりも1・8億円増となつたんじやが、今後も適切な繰り出しをする必要があるんじやよ。

ここまでの話は、一般会計と云うてな、税金などを財源として福祉や教育、消防など町民に広く行われる行政活動における歳入・歳出の会計の話じやが、幸田町にはそのほかに7つの特別会計と1つの企業会計が設けられておるのじや。

**歳出** 133 億 6,224 万円  
(前年度：129 億 1,223 万円)

**歳入** 143 億 7,411 万円  
(前年度：137 億 3,530 万円)



\* ( )は前年度

### ○費目別区分

人件費	31億6,250万円	23.7%	(31億4,071万円 24.3%)
物件費	24億6,911万円	18.5%	(21億9,518万円 17.0%)
扶助費	17億8,257万円	13.3%	(18億5,332万円 14.4%)
補助費等	16億8,606万円	12.6%	(14億8,016万円 11.5%)
繰出金	14億8,617万円	11.1%	(13億558万円 10.1%)
普通建設	12億1,942万円	9.1%	(8億1,063万円 6.3%)
公債費	10億8,883万円	8.2%	(12億7,703万円 9.9%)
維持補修費	3億1,836万円	2.4%	(2億4,852万円 2.0%)
貸付金	9,000万円	0.7%	(9,000万円 0.7%)
積立金	5,835万円	0.4%	(5億965万円 3.8%)
災害復旧費	87万円	0.0%	(145万円 0.0%)

### ○町税内訳

町民税	29億7,763万円	38.4%	(44億5,053万円 47.9%)
固定資産税	41億1,951万円	53.2%	(41億9,408万円 45.1%)
たばこ税	2億7,834万円	3.6%	(2億8,255万円 3.0%)
都市計画税	2億9,263万円	3.8%	(2億9,340万円 3.2%)
軽自動車税	7,751万円	1.0%	(7,579万円 0.8%)
入湯税	366万円	0.0%	(353万円 0.0%)

( )は前年度

### ●都市計画税の使いみち

都市計画税は、都市計画事業などのための目的税で、下表の事業に充てられています。

事業名称	事業費	都市計画税からの充当額
都市計画総務事業	7,902万円	2,538万円
土地区画整理事業	1億3,282万円	4,310万円
街路事業	39万円	13万円
公園事業	5,312万円	1,479万円
幸田駅前土地区画整理事業	3億1,489万円	6,111万円
公共下水道事業	7億2,761万円	1億4,812万円
合計	13億0,785万円	2億9,263万円

\* 主に、下水道整備、幸田駅前区画整理、岩堀・六栗・里地区の土地区画整理事業などに充当

### ●入湯税の使いみち

入湯税は、鉱泉浴場における入湯に対し、入湯客に課されるものです。観光の振興および観光施設の整備等に要する費用のための目的税で、下表の事業に充てられています。

事業名称	事業費	入湯税からの充当額
観光事業	718万円	366万円

\* 主に、大井池、あじさい便所等観光施設運営などに充当



## ◆特別・企業会計

K・・では、27年度の幸田町の特別会計と企業会計でどのようにお金が使われたのか教えてください。

彦左さん・・よっしゃ。一般会計は主に税金を財源として運営されておるのじゃが、特別会計は、ある特定の事業を行うために、特定の歳入・歳出を一般会計と区分して経理するための会計なのじゃ。

まずは、**土地取得特別会計**じゃ。この会計はな、公用・公共用に使われる土地や公共の利益のために事前に土地を購入するための会計なんじゃ。

27年度は、用地の売却いはなかったんじゃが、三ヶ根駅前用地の先行取得を行ったぞ。

**国民健康保険特別会計**はな、職場の健康保険などの適用を受けない町民が病気やケガをしたときに本人の負担以外の医療費を医療機関などに支払ったり、出産や死亡したときに経費の一部を支給したり、皆で支え合う会計なのじゃ。

27年度末の加入状況は、4、743世帯8,518人の皆さんがこの保険に加入しておるわけじゃ。

**後期高齢者医療特別会計**はな、75歳以上の高齢者に係る医療保険に関する会計じゃ。

後期高齢者医療に関しては、医療費の給付などは広域連合で行

い、この特別会計では、保険料の徴収と健康診断などの事業を実施しておるのじゃ。27年度末の被保険者数は3,753人じゃ。

**介護保険特別会計**はな、高齢になつて、介護が必要となつた場合に受ける介護サービスの本人負担以外の経費を、加入者と税金で負担し介護サービス事業所などに支払う会計をいうのじゃ。

27年度末では、656人が要介護、321人が要支援の認定を受けて各種サービスを受けたのじゃ。

次は、**幸田駅前土地区画整理事業特別会計**じゃ。この会計は、幸田駅前地区の区画整理事業を円滑に施工するための会計なのじゃ。

27年度は、建物移転補償などの事業が主なものじゃった。

**農業集落排水事業特別会計**はな、幸田町は、全町下水道化を推進しており、この会計は農村集落の環境整備の一つとして進められておるのじゃ。町内13地区すべて供用開始されており、それらの施設の維持管理事業を行つておるのじゃ。

**下水道事業特別会計**はな、農村集落以外の市街地の下水道整備などを運営しておる会計じゃ。

幸田町では、既存の市街化区域の整備がおおむね完了し、周辺集落区域と新市街化区域の整備を

たんにじゃ。

27年度末で農業集落排水と

下水道などの汚水処理人口は、40,033人となり、普及率は99.8%となつたわけじゃ。

最後は、**水道事業会計**じゃ。この会計は企業会計と言つてな、幸田町の水道事業の運営がされておる会計なのじゃ。

幸田町の水道普及率は27年度末99.8%で、水源は県企業庁から水を買つて各家庭に配水しておるのじゃ。27年度の総配水量は約457万立方分で、1日に永野水道山タンク2.5杯分で、26年度と比べると27年度は約1万立方分の減少となつたのじゃ。

どうじゃな、この厳しい財政状況の中、限られた財源を生かしながら幸田町では実にさまざまな事業が進められておるのじゃ。分かってもらえたかのう。

**えこたん**・・よく分かりました。幸田町では、住民の皆さんに関連するいろいろな事業が行われているのですね。今後、お金の使われ方に関心を持っていきたいと思ひます。

K・・そうですね。町の財政状況もひとりひとりが関心を持つていかなければいけないですね。

彦左さん・・そのとおりじゃ。それを住民に分かりやすくお知らせするための、財政健全化の指標が公表されておるから、そちらも見てみるかのう。

## ■決算状況

会計名			歳入(a)	伸び率	歳出(b)	伸び率	差額(a)-(b)
一般会計			143億7,411万円	4.7%増	133億6,224万円	3.5%増	10億1,187万円
特別会計	土地取得特別会計		3,187万円	60.5%減	3,187万円	47.0%減	0万円
	国民健康保険特別会計		37億1,564万円	13.0%増	36億0,856万円	12.7%増	1億708万円
	後期高齢者医療特別会計		3億2,904万円	9.3%増	3億2,807万円	8.9%増	97万円
	介護保険特別会計		16億1,541万円	5.0%増	15億6,225万円	5.4%増	5,316万円
	幸田駅前土地区画整理事業特別会計		3億3,289万円	60.1%増	3億1,489万円	57.8%増	1,800万円
	農業集落排水事業特別会計		3億8,415万円	0.9%増	3億7,520万円	1.2%増	895万円
	下水道事業特別会計		7億3,844万円	4.1%減	7億2,761万円	4.1%減	1,083万円
							94,733万円
企業会計 (税抜き)	水道事業	収益的収支	7億6,860万円	1.4%増	6億3,116万円	8.9%減	1億3,744万円
	会計	資本的収支	1億3,785万円	42.0%減	4億1,169万円	12.2%増	▲2億7,384万円
総合計			224億2,800万円	5.3%増	213億5,354万円	5.0%増	10億7,446万円

\*歳入には翌年度繰越明許費(事業財源分)一般会計3,983万円、幸田駅前土地区画整理事業特別会計1,800万円を含む

平成27年度に使われたお金を  
町民一人当たり換算すると…

## 33万3,049円

(前年度 32万7,215円)

133億6,224万円 ÷ 40,121人  
(一般会計) (H28.3.31)



### ■町民一人当たりを目的別に見てみると… ( )前年度

1	民生費	10万6,467円( 10万9,311円)
2	総務費	4万8,794円( 3万8,710円)
3	教育費	4万5,612円( 5万1,481円)
4	土木費	3万4,933円( 3万1,411円)
5	公債費	2万7,139円( 3万2,362円)
6	衛生費	2万6,304円( 2万9,395円)
7	消防費	1万8,484円( 1万3,500円)
8	農林水産業費	1万4,202円( 1万2,026円)
9	商工費	4,013円( 3,389円)
10	議会費	3,975円( 3,926円)
11	諸支出金	1,613円( 189円)
12	労働費	1,491円( 1,478円)
13	災害復旧費	22円( 37円)

### 財政健全化の指標

#### 経常収支比率

経常的・義務的経費に充てる割合

70～80%…適正

90%以上…要注意

27年度…80.4%

26年度…82.0%

25年度…84.7%



#### 実質公債費比率

借金の一般財源に占める割合

10%以下…望ましい

27年度…7.3%

26年度…7.7%

25年度…8.5%



#### 財政力指数

財政上の力を示す指数

指数が1以上の団体は

財政力の強い団体といえる

27年度…1.25

26年度…1.22

25年度…1.04



## 決算審査報告

幸田町監査委員

山下 力  
池田 久男

◎水道事業会計

決算審査に付された各会計の歳入歳出決算書等は、いずれも関係法令等に準拠して作成されており、その計数は正確で、予算の執行はおおむね適正であると認められた。

#### ◎一般会計・特別会計

一般会計と各特別会計の総決算額は、前年度と比較し、歳入・歳出各々増加となった。歳入決算額から歳出決算額を差し引いた形式収支を始め、実質収支、単年度収支は黒字であった。

町税などの未収金は、若干減少しているものの、未納者に対しては、個別のケースに応じた対応を継続する一方で厳正な措置も必要である。主要な財政指標では、財政力指数は上昇し、経常収支比率も改善されていることを示しているが、これらは、起債をしたための影響と考える。今後も計画的な起債に留意するとともに、経費の節減と事業の効率化に努められたい。

水道事業会計は、前年度と比較し、年間総配水量は若干減少し、年間総有収水量は若干増加している。総収益および最終純利益は各々増加している。引き続き安定かつ良質な水の供給に向け、施設の耐震対策・ライフライン機能強化・サービスの向上を含めた総合的な事業の取り組みが必要と考える。

#### ◎総評

平成27年度決算では、法人町民税が大幅に減額となり、町税全体でも前年度を下回り減収となった。また、減収補てん債により、自主財源比率は大幅に下降した。

日本経済の景気は、緩やかな回復基調が続いているものの、法人町民税の一部国税化、社会保障関係経費の増大、さらには消費税の引上げ等から、今後の行財政運営に関しては、予断を許さない状況が続くものと見込まれる。質の高い住民サービスを持続的に提供するため、更なる事務事業の効率化や行財政運営手法の見直しなどに一層努力されることを望むものである。

(平成27年度決算審査意見から)

## ◆平成27年度決算に 基づく健全化判断 比率の公表

彦左さん…まずは財政健全化法についての説明じゃ。これは、平成18年に北海道夕張市が財政破たんしたことが原因でできた法律のことじゃ。これにより平成19年度から議会や住民に対して財政状況を公表することが義務付けられたのじゃ。

えこたん…健全化判断比率で何が分かるんですか？

彦左さん…これまでの財政指標というのは、一般会計、土地取得特別会計、幸田駅前土地区画整理事業特別会計の3会計のみの決算額で計算する普通会計ベースの指標じゃったんじゃ。そのため、ほかの特別会計や第3セクターなどの外部団体でいくら赤字があっても指標上は黒字決算になり、本当の財政状況がわからなかったのじゃが、それらすべてを含めた連結決算により、本当の意味での財政状況が分かるようになったのじゃ。

えこたん…じゃあ、数値が悪いとどうなるんですか？

彦左さん…基準を一つでも超えれば、財政健全化の計画を作成しな

ければならなくなったんじゃ。K…それでは、各指標について教えてください。

彦左さん…ちよつと難しいけど財政健全化判断指標を一つずつ説明していこうかのう。

まずは、実質赤字比率じゃ。福祉、教育、土木などの普通会計の赤字額を町税等の財源と比較して財政運営の深刻度を示しておるのじゃ。幸田町は黒字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

次に、連結実質赤字比率じゃ。決算報告をしている一般会計と7つの特別会計、それと水道事業会計の連結決算の指標じゃ。すべての会計の赤字と黒字を足して、全体の資金不足を把握するため、町税等の財源と比較して財政運営の深刻度を示しておるのじゃ。これも幸田町は黒字じゃから数値は計上されなかつたんじゃ。

次に、実質公債費比率じゃ。借入金の返済額を指標化して、資金繰りの危険度を示しておるのじゃ。幸田町は3カ年平均が7.3%で基準値を下回っておるのじゃ。

えこたん…基準以下で安心ですね。

彦左さん…いや。下回っていても愛知県内の市町村の中では高い方

なんじゃ。もつともつと借金を減らしていかなとね。

次に、将来負担比率じゃ。これは、特別会計や一部事務組合等まで含めた借入金や将来支払っていく可能性のある負担の現時点での残高の程度を指標化して、将来の財政を圧迫する可能性を示すのじゃ。27年度は、将来負担より貯金等の方が多くなったため数値は計上されなかつたのじゃ。

えこたん…安心ですね。

彦左さん…今後も将来負担が財政を圧迫しない運営が必要じゃな。

最後に、資金不足比率じゃ。これは農業集落排水事業、下水道事業、水道事業の3つの公営企業の資金不足をそれぞれの料金収入の規模と比較して指標化し、経営状況の深刻度を示すものじゃ。幸田町の公営企業はすべて黒字じゃから数値は計上されなかつたのじゃ。

えこたん…27年度もすべての指標が基準をクリアしていて良かったね。これからもしっかりとチェックしなくっちゃね。

問合せ 財政課財政グループ

(内線3553)



## 平成27年度主な実施事業



大日陰グラウンドゴルフ場東屋設置  
621 万円



全町防犯灯LED化  
945 万円



太陽光発電設備設置（南部中学校）  
2,268 万円

## 1 財政健全化判断比率

下表のとおり、いずれの指標についても早期健全化基準を下回っています。

	健全化判断比率	早期健全化基準
実質赤字比率	—	13.32%
連結実質赤字比率	—	18.32%
実質公債費比率	7.3%	25.0%
将来負担比率	—	350.0%

\* 早期健全化基準

財政健全化判断比率のいずれかが早期健全化基準以上の場合、財政状況はイエローカードである「早期健全化段階」となり、財政健全化計画を定めなければならない。

○財政健全化判断比率の近隣市町状況

市町村名	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
幸田町	—	—	7.3%	—
岡崎市	—	—	▲1.5%	—
西尾市	—	—	4.0%	15.3%
蒲郡市	—	—	▲1.3%	—
県平均	—	—	3.2%	12.5%

\* 全国の自治体の状況については、総務省のホームページ (<http://www.soumu.go.jp/>) をご覧ください。

## 2 公営企業の資金不足比率

下表のとおり、資金不足を生じた公営企業はありません。

	資金不足比率	経営健全化基準
農業集落排水事業特別会計	—	20.0%
下水道事業特別会計	—	20.0%
水道事業会計	—	20.0%

\* 経営健全化基準

各公営企業の資金不足額の、事業の規模に対する比率であり、経営健全化基準（20%）以上となった場合には、経営健全化計画を定めなければならない。

(注) 健全化判断の指標は、数値が高いほど健全性が低く、逆に数値が低いほど健全性が高いと判断される指標で、▲は赤字や資金不足がなく、より健全であることを示しています。

## 平成27年度主な実施事業



消防救急無線デジタル化整備事業  
1億2,420万円



橋梁長寿命化（倉添橋）  
4,090万円



プレミアム商品券事業  
2,507万円